

幸せの価値観

全日青副会長・泉水寛道

行け！全日青！



泉水寛道＝全日青副会長、北海道妙法寺副住職。昭和54年生まれ

幸せの尺度は人それぞれ違い、幸せと「幸せってなに？」と感じてもそこにさらなる欲望が芽生えれば幸せではなくります。少欲知足（欲シヨク知足チソク）（欲シヨクを少なくして足るを知る）の精神が幸せへの近道であることは間違いない。ある日、「あなたは今、幸せですか？」。こう問われて「幸せです」と即答することは、欲望の多い現代では難しいのではないのでしょうか。残念ながら、日々の生活の中で幸せを感じていない人は思ったよりも多いのです。

我が家の子どもに「幸せってなに？」と聞かれたことがありました。まだ幼稚園の子どもに幸せを説明するのは困難でしたが、私のたどり着いた答えは「あたたかい気持ちになること」でした。ある日、子どもと温水プールへ遊びに行き、寒くなったので暖を取るためサウナ室に入ると、「お父さん、ここはあたたかいね。これが幸せなんじゃないか。残念でしょ？」と、私の言いたかったことは伝わっていません。もの、これはこれ

誰もが幸せになりたい それ可能です

であたたかくて、確かに幸せだなあと感じました。

「世の中は心ひとつの置き所 楽も苦となり 苦も楽となる」という句は、物事を違った角度から観ることで感じ方が変わるという意味ですが、確かにコップに残った半分の水を、もう半分しかないと思えば不幸で、まだ半分も残っていると思えば幸せを感じられます。

幸せは「四合わせ」とも書きます。この四は「気づく」「感じる」「信じる」「思う」を指します。幸せに気づけないと幸せを感じられませんが、感じられた幸せを信じられないと幸せではなくります。そして自分は幸せと思えない人は幸せではありません。逆に言

えば、この4つを心に持てたなら、私たちはすくでも幸せになれるということです。この4つを感じるために、私たちは日々お題目をお唱えているのです。お寺に相談に来た若者が「死にたい」という言葉を発しました。この「死にたい」は、本当に命を絶ちたいと思っているのではないのです。誰もが幸せになりたいはずなのです。

（あわせ）（なり）たい。このメッセージに気づいてあげて、その人の心を感じてあげて、信じてあげる。その人を中心から思っただけで救われる命がある。共にお題目修行をお勧めする役割を果たせるよう、これからも精進して参ります。